

# 身近に潜む 外来生物 の脅威

■問い合わせ 環境衛生課 ☎ 64・6016

## 「外来生物」とは

「外来生物」とは、もともとその地域に生息していなかったのに、人によって持ち込まれた動物や植物のことです。

主に国外から持ち込まれたものを指しますが、日本にもともと生息していた動植物（在来生物）でも、人によって本来生息していない国内の別の地域に移動した場合は、「国内由来の外来生物<sup>\*</sup>」と呼ばれ、ともに問題となっています。

※渡り鳥や、海流に乗って移動する魚や植物の種類など、自然の力で移動するものは含まない



◀ 1970年代のペットブームで持ち込まれたアライグマ。農水産物を荒らすなどの被害を生み、現在は輸入や飼育が規制されている

## 生態系を壊す厄介者

日本には、以前から多くの外来生物が侵入しており、生態系の破壊や農林水産物への被害を及ぼすなど、社会問題となっています。

小浜でも、繁殖力の強い外来生物が増えており、生態系を壊す危険が迫っています。多様な動植物が暮らす、「本来の小浜の自然環境」を、私たちの手で守り育み、後世へと残していきましょう。

## 被害を防ぐために

外来生物の被害を予防するための3原則は、①入れない、②捨てない、③拡げない（増やさない）です。一人ひとりが外来生物について理解を深め、3原則を守ることによって、さまざまなルートから侵入してくる外来生物による被害を防ぎましょう。

## 身近に潜む外来生物 — 黄色い花にご用心！



### オオキンケイギク

花 <sup>とうこうしよく</sup> 橙黄色で、直径5～7センチ。5月～7月頃に咲く  
 葉 葉は下のほうについている。両面に荒い毛がある  
 全体 高さ30センチ～70センチ。多年草。毒性なし



### オオハンゴンソウ

花 <sup>きみどりいろ</sup> 中央部分が黄緑色で、7月～10月頃に咲く  
 葉 羽根状に裂けていて、ギザギザの形をしている  
 全体 高さ0.5メートル～3メートル。多年草

## 地域の自然はみんなで守ろう！ ～外来生物の駆除にご協力ください～



清掃活動「クリーンアップ作戦」の様子（平成30年6月3日・駅前町）

市では毎年、市民の皆さんにも協力をいただいて、市内の清掃活動を実施しています。作業の際に、オオキンケイギクなどが生えているのを見つけたら、次のことに注意して駆除していただくようお願いします。

### 駆除方法

根から引き抜いて、できるだけ土を落として乾かした後、種が飛ばないように、燃やすゴミに出してください。開花前に駆除することで、種子の飛散による拡大を防ぐことができます。

# 減らそう！ 食品ロス

■問い合わせ 環境衛生課 ☎ 64・6016

## 大量の食べ物が捨てられている

「食品ロス」とは、まだ食べられるにも関わらず廃棄される食品のことです。

発展途上国で飢餓が深刻な問題になっている一方で、先進国では、行き過ぎた衛生管理や、適量を超えた食品の購入・注文などによって、大量の

食品が廃棄されています。

同時に、廃棄によって発生するゴミの量も増加するため、環境にもさまざまな悪影響を及ぼします。

私たち一人ひとりが意識し行動することで、食品ロスを減らしましょう。

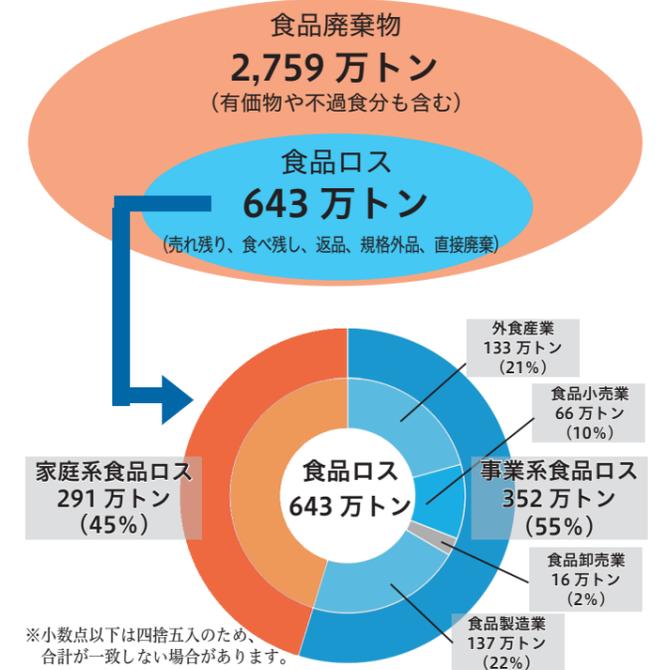
## 日本における食品ロス

日本で1年間に発生する食品廃棄物は、2,759万トン。その内、643万トンは、まだ食べられるにも関わらず捨てられています（いずれも平成28年度の推計値・右図）。

これは、日本人1人あたり、毎日茶碗一杯分のごはんを捨てていることになります。

食品ロスは、大別すると、家庭で発生する「家庭系食品ロス」と、小売店や飲食店といった事業活動を伴い発生する「事業系食品ロス」に分けられます。

食品ロス全体の643万トンに占める割合は、家庭系が約45%、事業系が約55%と近い数値になっていることから、食品ロスを減らすためには、それぞれの立場でできることに取り組むことが重要になります。



## 家庭でできる食品ロス削減 ～日々のちょっとした心がけ～

### 買い物をする際の工夫

- ・ 買い物に出かける前に、冷蔵庫の中を確認する
- ・ 必要な時に必要な分だけを購入する
- ・ 購入する際は、棚の手前の商品から取る（期限切れによって店で廃棄されることを防ぐ）



### 調理・食事の際の工夫

- ・ 余った食材を冷凍するなど、保存方法を工夫する
- ・ 残っている食材から順番に使用する
- ・ 体調や健康、家族の予定を把握し、食べきれぬ量を作る

